

田中次郎：自然史学会連合設立記念シンポジウムおよび総会報告

10月7日(土)に早稲田大学国際会議場において自然史学会連合設立記念シンポジウムが開催された。講演は以下の7氏による。

- 速水 格 (神奈川大学・連合代表)「海底洞窟動物群の意義－生物科学と地球科学の一接点」
- 大場秀章 (東京大学)「ヒマラヤのお花畑はつくられたものか？」
- 青木淳一 (横浜国立大学)「動物界の知名度－ダニを例として」
- 斎藤常正 (東北大学)「恐竜の時代と21世紀の地球環境」
- 赤澤 威 (東京大学)「先史モンゴロイドの拡散」
- 日高敏隆 (滋賀県立大学長)「はくの考えている自然史」
- 吉良竜夫 (大阪市立大学名誉教授)「よき時代の定量生態学」

なお最後の講演は第3回コスモス国際賞受賞記念講演(財)国際花と緑の博覧会記念協会後援である。シンポジウムの後、連合の総会が開催された。加盟学術団体数は以下の28である。

種生物学会、植物分類地理学会、植物地理分類学会、地学団体研究会、(社)東京地学協会、日本遺伝学会、日本衛生動物学会、日本貝類学会、日本花粉学会、日本魚類学会、日本古生物学会、日本昆虫学会、(社)日本植物学会、日本植物分類学会、日本人類学会、日本生態学会、日本蘚苔類学会、日本藻類学会、日本第四紀学会、日本地質学会、日本地理学会、(社)日本動物学会、日本動物分類学会、日本鳥学会、日本ベントス学会、日本哺乳類学会、日本鱗翅学会、日本霊長類学会(50音順)。

総会審議結果：自然史学会連合運営規則を審議し、以下のように決定した。なお字句は今後訂正の可能性がある。

自然史学会連合運営規則

1. 自然史学会連合(以下連合という)は自然史科学全般にかかわる研究・教育を振興し、現代社会に必要な正しい自然観を普及することを目的として活動する。
2. 連合は自然史科学に関連する学術団体(以下団体という)によって構成する。
3. 連合への加盟と連合からの脱退は各団体の自由意志による。ただし、日本学術会議登録団体以外の加盟についてはその適否を連合の総会で審議する。
4. 連合は原則として年一回の総会を開いて、各団体の意見を交換・集約し、重要案件を審議する。加盟団体の構成員は総会に出席できる。
5. 総会は各団体から1名づつ選出された代表者をもって構成する。
6. 総会は全団体の代表者の2/3以上の出席をもって成立し、過半数をもって議決する。ただし、重要案件の決定には出席する学会代表の2/3の賛成を要する。委任状は認める。
7. 連合に連合代表を1名をおく。連合代表は総会において選出され、任期は2年とする。
8. 総会は団体代表者の中から運営委員(任期2年)を7名程度選出し、活動の立案と執行を委任する。運営委員は多岐にわたる分野の研究者が含まれることが望ましい。
9. 連合代表と運営委員会は事務局を設ける。
10. 活動に要する経費は、分担金、補助金、寄付金などによる。分担金は別に定める。

自然史学会連合代表の選出：推薦を得た後、投票の結果、日本古生物学会代表の速水格氏(神奈川大学理学部応用生物科学科)が、初代自然史学会連合代表に選出された。なお所属は次の通りである。

運営委員の選出：推薦を得た後、日本植物分類学会代表の西田治文氏、日本人類学会代表の馬場悠男氏、日本藻類学会代表の田中次郎氏、日本地質学会代表の米谷盛寿郎氏、日本動物分類学会代表の武田正倫氏、日本ベントス学会代表の白山義久氏の6名が選出された。

今後重点的に取り上げられるべき活動内容：各団体の緩やかな結合体として、連絡を密にする基本姿勢が認められた。分担金について審議した結果、分担金を出しにくい学会もあり、連合が予算案を作って、各学会に依頼する事が必要であることがわかった。学術情報センターのインターネットを利用し、ホームページを作ることが提案された。(東京水産大学)